

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	黒田 翔子 (くろだ しょうこ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 8 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 51 回大会 大阪府大阪市北区中之島 5-3-51 大阪国際会議場
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	黒田 翔子、唐 東杰、石川 律、嶋田 洋徳
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	購買行動の状態像における日本と中国の文化的差異に関する記述的検討
発表・活動・開催の概要と成果 (学会発表の場合、抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>本研究は、購買行動の中でも精神的健康や経済的苦痛に関連するとされる「衝動買い行動」と「顕示的消費」に注目し、文化的背景による差異を明らかにすることを目的とした。衝動買い行動は突発的かつ即時的に行われる購買であり、さらに強迫性を伴う場合は社会的機能の妨害や心理的問題を引き起こす可能性が指摘されている。一方、顕示的消費は社会的地位の誇示を目的とした消費行動であり、長期的には経済的・心理的負担につながるリスクがあるとされる。しかしながら、これらの購買行動をナシヨナリティの観点から実証的に比較した研究は十分に蓄積されていない。</p> <p>本研究では、日本人および中国人大学生を対象として、自由裁量所得、衝動買い傾向、顕示的消費傾向を測定し、統計的手法を用いて分析を行った。分析の結果、衝動買い傾向の程度に日中間の差は認められなかったが、日本人では自由裁量所得と衝動買い傾向に正の相関が示され、中国人では相関が認められなかった。また、顕示的消費傾向は、中国人が日本人より有意に高いことが示された。</p> <p>本研究の成果として、購買行動における文化的差異が明確に整理された。とりわけ、日本人は金銭的余裕がある場合に衝動買い傾向が高まりやすい一方、中国人は経済的状況にかかわらず衝動買いを行う可能性があることが示唆された。さらに、中国人は社会的地位を強調する心理・社会的要因が購買行動に強く影響しており、顕示的消費傾向が日本人よりも顕著であることが明らかとなった。</p> <p>これらの知見は、消費行動が文化的背景によってどのように異なるかを理解する基盤を提供するとともに、不適応的な購買行動が精神的健康に悪影響を及ぼす過程を解明し、購買行動の状態像に応じた心理的支援のあり方を検討する上で有益な示唆を与えるものである。</p>	